

会 議 録

会 議 の 名 称	令和 7 年度第 2 回所沢市自治基本条例推進委員会
開 催 日 時	令和 7 年 1 1 月 1 7 日（月）午後 6 時から午後 7 時 5 0 分まで
開 催 場 所	市役所高層棟 4 階 4 0 1 会議室
出 席 者 の 氏 名	藤本 浩志（委員長）、木下 直三（副委員長）、有泉 大地、 北村 かのこ、田中 ひとみ、山口 治夫、高橋 祐二、廣川 隆通、 倉地 真太郎
欠 席 者 の 氏 名	今川 奈緒
説明者の職・氏名	—
議 題	(1) 第 2 期所沢市まち・ひち・しごと創生総合戦略の進捗報告について (2) 第 3 期所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案について (3) その他
会 議 資 料	(1) 会議次第 (2) 令和 7 年度第 2 回所沢市自治基本条例推進委員会 (3) 令和 6 年度所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗管理 表 (4) 第 3 期所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案
担 当 部 課 名	経営企画部経営企画課 電話 04（2998）9027 経営企画部長 鈴木 明彦 経営企画部次長 並木 茂幸 経営企画課 課 長 齋藤 伸宏 主 幹 柴崎 大助 主 査 稗田 真理子 主 査 藤 尚文 主 任 友木 雄太

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>開会后、藤本委員長の進行により議事が進められた。</p> <p>（1）第2期所沢市まち・ひち・しごと創生総合戦略の進捗報告について、事務局より説明資料に沿って説明を行った。</p>
委員	<p>観光客数は県内3位とあった。川越はいつも混んでいる印象があるが、そこよりも多いのか。</p>
事務局	<p>埼玉県が公開している県内市町村観光入込客数ではそのようになっている。</p> <p>観光入込客数として計上する観光施設やイベントは各市町村の判断になるため、あくまで目安でしかない。実際の感覚とズレは生じているかもしれない。</p>
委員	<p>所沢Mixカルチャーフェスタをはじめ、様々なイベントを行っていると思うが、気づいた時には既にイベントが終わっていることが多い。ホームページやSNSだけでなく、チラシを入れたり、電車に広告を出すとより効果が高くなるのではないのか。</p>
事務局	<p>所沢Mixカルチャーフェスタでは、広報やホームページ、ほっとメールで周知したほか、チラシは所沢駅や市内まちづくりセンターに配架している。電車の広告については、費用面の課題があるものの、効果的と考えているため検討していきたい。</p>
委員長	<p>ほっとメール等発信はしているようだが、もっと情報が届くと良い。</p>
委員	<p>コスプレイヤーがいたり、写真を撮っていたり現地の様子がわかった。実際に行ってみないと何を行っているのかわからない。</p>
事務局	<p>株式会社KADOKAWAとは、武蔵野回廊文化祭だけではなく、文化芸術や商業面でも連携して事業を進めている。実際に現地に行ってみないと市が何を行っているのか見えにくいところもあるため、まずは足を運んでもらうためにも周知することに力を入れたいと考える。</p>
委員長	<p>市は適切な仕掛けをして情報発信をしていると思う。こういうところだったらより市民の目に触れやすい、こんなメディアの使い方がある等、意見があれば事務局へ伝えてほしい。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	<p>ほっとメールやＬＩＮＥに登録しても、情報がたくさん流れてきてわからなくなっていないか。庁内の審議会の委員は、スポークスマンのような存在でもあり、チラシ等案内しても良かったと考えている。</p>
委員長	<p>ＬＩＮＥ等だと情報が埋もれてしまう可能性がある一方で、自身宛に郵便が届いていれば目を通すことはかもしれない。</p> <p>（２）第３期所沢市まち・ひち・しごと創生総合戦略の素案について、事務局より説明資料に沿って説明を行った。</p>
委員長	<p>素案は構成を見比べると今後何に力を入れていくのかが見えてくる。</p>
委員	<p>デジタルの活用については、こどもを中心としたまちづくり、中核市移行による地方分権の推進に比べると、抽象的に感じ見劣りしてしまう印象を受けた。</p>
事務局	<p>理想と現実の問題もあり、具体的になかなか書くことができなかった。</p>
委員	<p>ソードアートオンラインの聖地巡礼はまちの魅力を発信するのに有効ではないか。</p>
事務局	<p>昨年度の所沢Mix カルチャーフェスタでも活用できないか検討していた。アニメについては、COOL JAPAN FOREST 構想を通じて活用していきたいと考えている。</p>
委員	<p>こどもや若者の対象範囲について伺いたい。</p>
事務局	<p>「こども・若者しあわせプラン」において、こどもは０歳から概ね１８歳、若者は概ね１３歳から３０歳まで、施策によっては概ね４０歳未満までとその家族を対象としている。</p>
委員	<p>市内の施設に入所できず、市外の施設に入所する方や、在宅での介護が大変という声も聞く。高齢化が進む中で課題が生じている。</p>
事務局	<p>「こどもを中心としたまちづくり」というと、こどもだけに焦点がいきがちであるが、「こどもを中心としたまちづくり」とは、こ</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>どもたちが元気に育つ環境を地域全体で支えていくことによって、あらゆる世代の定住・流入や雇用・産業の創出を促し、若者だけでなく、性別や年代を問わず、より多くの人に住みたい、住み続けたいと思ってもらえるまちづくりを目指すものである。こどもだけではなく、人口減少、少子高齢化に対応する１つの戦略である。</p>
委員長	<p>「こども」を強調してしまうと、こども以外は重要ではないなどの誤解を生む可能性がある。</p>
事務局	<p>中核市に移行すると、保健所の設置など２，０００を超える事務が県から移譲される。それにより、住民サービスをより充実させていくものであることから、横断的な視点として取り入れている。</p>
委員	<p>自身が３５年前に所沢市に引っ越してきたのは、当時１９時まで預かってくれる民間保育園が所沢市にあったためである。こどもの預け先がきっかけで転入し、以降も引っ越すことなく現在に至っている。</p> <p>先日、初めて市の文化祭に参加してみたところ、自分の知らない世界で様々なことをやっていることが分かった。自分から動き出すことが重要だと認識した。</p>
事務局	<p>市が魅力を発信することは大事であるが、周りの人から聞いた情報は受け止めやすいことから、今後はそういったシティプロモーションも考えていきたいと考えている。</p>
副委員長	<p>市民フェスティバルの予算が年々削減されており、個人の負担が大きくなっていると聞く。中にはフェスティバルが不要と考えている人もいようだ。個人的には、フェスティバルはこどもたちのために行っているものであり、必要なものと考えている。</p>
事務局	<p>市民の方と長年にわたり市民フェスティバル、ところざわまつり、市民文化フェア等を作り上げてきたことは市の誇りと考えており、そういった思いも計画に反映していきたいと考えている。</p>
委員	<p>子育て支援として、例えばお米券を配付した自治体があるように、何を実施したのか行動で示した方がわかりやすいと思う。</p> <p>また三ヶ島工業団地について、どのような事業者が参入するのか市は把握しているのか</p>
事務局	<p>一番予算をかけたのは給食費の無料化である。市が行ったことが</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>市民の方に見えてこない、行政の評価につながらない。</p> <p>また三ヶ島工業団地について、どのような事業者が入ってくるかは把握していないが、地域の方にも来てよかったと思ってもらえるような企業を誘致したいという意見交換は行っている。</p>
委員	<p>都内の学童でアルバイトを行っている。都内のこどもたちはiPadを持参して勉強している。所沢市の状況について確認したい。</p>
事務局	<p>学校でクロームブックを配っている。それを使って、宿題を行ったり、通知を受け取ったりしている学校もあるようだ。いい影響と悪い影響と両方あると聞くため、整理したうえで活用していく必要がある。</p>
委員	<p>スウェーデンやデンマークでは、いち早くデジタル化を進めたが、学力が落ちたことから、今では紙に戻しているようだ。</p>
委員	<p>所沢警察と話をした際に、所沢市は特殊詐欺に遭う方が多いと聞いた。暮らしやすさの向上の項目があるので、特殊詐欺についての計画に記載したらどうか。</p>
事務局	<p>金額も件数も多くなっている。自分だけは大丈夫と思っている方こそ被害に遭われている。市としても広報には毎月防犯に関する情報を掲載しているところである。</p> <p>（３）その他 特になし</p> <p>事務局より次回委員会の開催（１月下旬もしくは２月頃）について案内を行った。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>